 医療機関専用電話予約ダイヤル:03-5269-7538

第12号 (令和5年11月1日 発行)

<第12号 TOPICS>

- 1. 専門外来のご紹介
女性骨盤底・排尿機能外来 泌尿器科 沢田 勇吾
- 2. 外来在宅共同指導の取り組みについて
医療連携・入退院支援部 入退院支援室
やよい在宅クリニック 原田 潤一郎 医師
- 3. 小児病棟でハロウィン～東病棟3階・5階より～
- 4. 「わかまつ学級」開級10周年
- 5. 第9回地域連携セミナー開催案内
- 6. 図書館の利用について



1. 専門外来のご紹介

「女性骨盤底・排尿機能外来」

泌尿器科 沢田 勇吾

2023年4月より泌尿器科専門外来の一つとして女性骨盤底・排尿機能外来を開設しました。女性の骨盤底・排尿症状に関する悩みに対応します。骨盤臓器脱（腔口からの腔壁の脱出といった膀胱瘤、子宮脱、直腸瘤等）、切迫性・腹圧性尿失禁（トイレにたどり着く前での尿漏れ・咳や体動時の尿漏れ等）、排尿障害（頻尿や尿を出しづらい等）、間質性膀胱炎・膀胱痛症候群（蓄尿時の下腹部痛等）、慢性外陰部痛（陰部が下着に擦れる、痛痒い等）等の診療を行っています。医師と専門看護師（皮膚排泄ケア認定看護師や排尿機能検査師）とのチーム医療で、骨盤底筋体操などの保存治療から手術療法まで広く対応しております。例えば、骨盤臓器脱手術は経腔手術からロボット手術まで、メッシュ（人工シート）を用いた手術から自己組織のみで修復する手術まで、全方位戦略で対応します。女性医師による診療にも対応し、話し易い雰囲気の外來を心がけています。患者様のご紹介を頂けましたら幸いです。また無料の電話相談窓口を開設しました(下記)。まずは電話でも構いませんので、患者様にご案内を頂けましたら幸いです。



女性骨盤底・排尿機能外来 電話相談受付日時
第1・3・5木曜 13:30～16:30 TEL:03(5269)7623

2. 外来在宅共同指導の取り組みについて

入退院支援室 看護師：横尾由美

通院患者がスムーズな在宅医療への移行を推進する観点から2022年の診療報酬改定で「外来在宅共同指導料」が新設されました。外来主治医と訪問診療医の連携した診察を評価するもので、医療連携・入退院支援部として推進していきたい取り組みとなっております。算定要件は以下となります。

[対象患者]

- 外来において継続的に診療（継続して4回以上外来を受診）を受けている患者であって、在宅での療養を行う

[算定要件]

• 外来在宅共同指導料1

保険医療機関の外来において継続的に診療を受けている患者について、当該患者の在宅療養を担う保険医療機関の保険医が、当該患者の同意を得て、患家等を訪問して、在宅での療養上必要な説明及び指導を、外来において当該患者に対して継続的に診療を行っている保険医療機関の保険医と共同して行った上で、文書により情報提供した場合に、患者1人につき1回に限り、当該患者の在宅療養を担う保険医療機関において算定する。

• 外来在宅共同指導料2

外来において当該患者に対して継続的に診療を行っている保険医療機関において、患者1人につき1回に限り算定する。なお、当該保険医療機関の保険医が、在宅での療養上必要な説明及び指導を情報通信機器を用いて行った場合においても算定できる。

令和4年度診療報酬改定の概要 在宅 厚生労働省保険局医療課 P.10一部抜粋

今回、やよい在宅クリニック（文京区）原田医師、脳神経外科の堀場医師にご協力いただき、初めて外来共同指導に取り組みました。

患者は髄膜腫、病状進行、認知力低下、ADL低下があり在宅療養が困難な状況でした。外来主治医は入院で在宅環境の調整を提案しましたが、「入院はしたくない」と本人の訴えもあり在宅で訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション導入となりました。2023年9月、3泊4日ガンマナイフ治療目的で入院、退院1週間後の訪問診療時に外来在宅共同指導を実施しました。

当日は、堀場医師からのオンラインの声掛けに本人が笑顔で応対する姿がありました。原田医師からは病状や治療についての質問があり、ガンマナイフ治療後の眼球運動を画面上で一緒に確認しながら診察を行いました。堀場医師からは入院時から吐き気があり、食事がすすまなかったことでの懸念を伝えましたが、退院後は消化器症状もなく食事を摂取できていることが確認できました。

原田医師から、患者は自宅でトイレ歩行のリハビリに取り組んでおり、短期入院でもトイレ時の付き添い歩行等、リハビリテーション継続についての提案がありました。

外来在宅共同指導では病状、治療、自宅での生活状況を共有し、生活の中での医療を具体化することで、患者の生活に沿ったその人らしい療養に繋がると感じました。

当院は平均在院日数10日前後、治療終了とともに退院して外来で地域と連携し療養調整し

ていくことが多くなります。外来在宅共同指導は訪問診療のスムーズな導入、移行に繋がると考えられます。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

～やよい在宅クリニック 原田医師より～

いつも当院との病診連携を実施していただきありがとうございます。

この度、東京女子医大の入退院支援室からのご発案で退院後の在宅オンライン+病院オンラインでの共同診療を実施させていただきました。診療のイメージとしてはテレビのロケ番組で我々在宅医がロケ班、病院の先生方がスタジオで話しながら生中継するような感覚でした。今回は脳神経外科の堀場先生とコラボさせていただきました。総合医としては見逃しがちな眼球運動をリアルタイムでご教授いただきました。患者さんはオンラインで在宅医と主治医とコミュニケーションを目の当たりにし、実際に病診連携ができていることの確認にもなったことで一種の安心感もあったように感じました。

今後の在宅医療が充実していく上で、大いに有用かつ有望な診療システムであると思います。外来在宅共同指導料が算定されるようになり、共同診療の機会が増えることを熱望しております。今後ともよろしくお願いいたします。

～脳神経外科 堀場医師より～

「外来在宅共同指導」を初めて利用し、この場を借りてその有用性を報告させていただきます。

患者さんは脳神経外科で長期に渡り加療を継続されている 74 歳女性・難治性髄膜腫の方です。つい昨年までお孫さんの面倒や旅行など非常にお元気に活躍されていましたが、今年に入り髄膜腫の再発期間が徐々に短縮、頭蓋外転移を認め、髄膜腫の中でも比較的稀少である悪性髄膜腫へと病期が進行されました。短期間で全身衰弱が進行、一般的に「良性腫瘍」と知られる髄膜腫の悪性化に、本人家族の理解も追いつかないまま、あっという間に全介護を要する ADL となりました。急ピッチで在宅環境を調整する必要に直面し、今回地域連携室の方々の全面的な協力の下、やよい在宅クリニックへと医療を繋ぐことができました。ただ、急ピッチで進めた在宅診療への移行は決してスムーズとは言えず、本人家族、在宅医、主治医との連携に不安感を強く残しながらのスタートとなりました。定期的なクリニックへの連絡で診療状況を確認したり、ご家族との電話連絡で状況の理解に努めるも、やはり十分とは言えず、主治医としてどのように介入すべきか不明瞭な点も多かったのですが、今回画面越しではありますが自宅での診療の様子をリアルタイムで拝見し、患者・在宅医・主治医の 3 者で一同に情報共有ができたことで、「連携の強化」のみならず、今後の診療において「安心感」という最も重要な効果を実感することができました。患者さん本人が安心してスムーズな在宅医療への移行が実現できることは勿論のこと、患者(家族)・在宅医・主治医が共通認識の下で医療を展開するためにも、本システムの周知と今後の更なる活用が広く普及することを願う次第です。



やよい在宅クリニック
原田 潤一郎 医師



脳神経外科 堀場医師 入退院支援室 横尾看護師

3. 小児病棟でハロウィン🎃 ～東病棟3階・5階より～

10/31（火）小児病棟ではハロウィンのイベントを開催しました。小児病棟には2名の保育士が在籍しており、入院中の子どもたちの成長・発達のための支援を行っています。年間を通して季節行事を企画し、日ごろ味わうことのない経験を通してストレスの軽減を図っています。ここ数年はCOVID-19の影響で、病棟の季節行事は当日勤務の



スタッフだけで、規模を縮小して開催していましたが、今年度は小児科で実習中の医学部の学生さんと、看護学部・小児ボランティア OHANA の皆さんが参加してイベントを盛り上げてくださいました。プレイルームに集まった子どもたちは、保育士からハロウィンのお話を聞き、



マントとステッキを製作して様々な衣装をしたスタッフや学生さんと写真撮影をしました。その後、プレイルームに来られなかった子どもたちの病室へ伺い、一緒にチェキで撮影した写真を手作りフォトフレームに貼ってプレゼントしました。

子どもたち、付き添いのご家族、学生ボランティア、病棟スタッフ・・・イベントに参加したみんなで楽しんで、とても良い思い出ができました。

4. 「わかまつ学級」開級10周年を迎えました！

東京女子医科大学病院には、院内学級「わかまつ学級」があることをご存知でしょうか。治療のために1か月以上の入院予定のあるお子さんの教育支援のため、新宿区立余丁町小学校の分校として、平成26年（2014年）に第1病棟3階に教室が設置されました。おもに脳神経外科、腎臓小児科のお子さんで、教室まで移動が困難な場合には、ベッドサイドまで訪問して授業を行うこともありました。授業内容は、一般の小学校と同じで、時には調理実習や社会科見学として、院内のコンビニエンスストアの商品管理の現場を見学など、様々な取り組みが行われておりました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、対面授業の継続が困難となり一時的に中断を余儀なくされましたが、タブレットによるオンライン授業に切り替え、教育環境を維持してまいりました。こうした苦難を乗り越え、開級10周年を迎えた令和5年10月より、感染予防対策を講じたうえで、対面授業が再開されることになりました。



オンライン授業という新たな方法が確立できたと同時に教室での対面授業の意義深さを改めて知る機会にもなったと考えています。今後も安心して入院治療に専念できるよう、新宿区教育委員会や余丁町小学校と連携して、わかまつ学級の運営を支援していきたいと考えております。



詳細は、当院ホームページをご参照ください。

<https://www.twmu.ac.jp/info-twmu/wakamatsu.html>

最後までお読みいただきありがとうございました。

※このメールマガジンの配信を希望されない場合は、お手数ですが下記地域連携室メールマガジン専用アドレスまでご連絡をお願いいたします。またご意見・ご要望などございましたら、あわせてご連絡いただければ幸いです。

※当メールマガジン全文（添付ファイル含む）又は一部の無断転載および再配布・再配信を禁じます。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

発行：東京女子医科大学病院

医療連携・入退院支援部 地域連携室

〒162-8666 東京都新宿区河田町 8-1

TEL：03-5269-7160（直通）

FAX：03-5269-7387（直通）

Mail：chiiki-renkei.bm@twmu.ac.jp（メールマガジン専用）

※ご意見・ご要望などはこちらからお願いいたします。

URL：<http://www.twmu.ac.jp/info-twmu/index.html>

★診療予約は医療機関専用電話予約ダイヤルへ

TEL：03-5269-7538

★患者様のご紹介はFAX・Webからも受付ています。

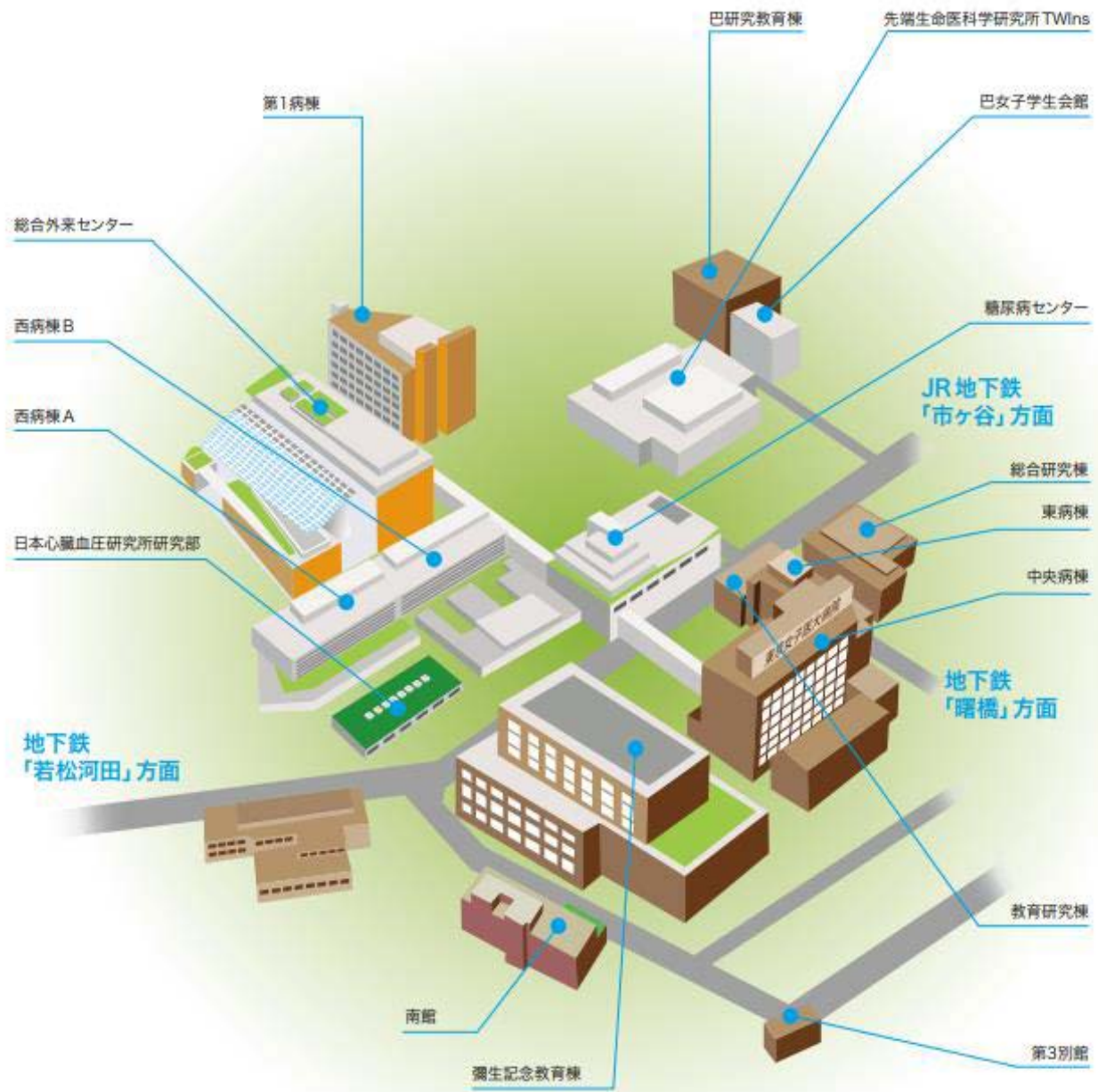
ぜひご利用ください。

<https://www.twmu.ac.jp/info-twmu/index.html>

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★



構内見取図



ご案内図



○地下鉄

都営大江戸線 ②若松河田駅下車(若松口より徒歩約5分)

③牛込柳町駅下車(西口より徒歩約5分)

都営新宿線

④曙橋駅下車(A2出口より徒歩約8分)

○都営バス

宿74系統 ①新宿駅西口→東京女子医大前

宿75系統 ①新宿駅西口→東京女子医大前←⑧四谷駅前←三宅坂

早81系統 早大正門→⑤馬場下町(早稲田駅)→東京女子医大前←⑥四谷三丁目←

千駄ヶ谷駅前←原宿前←渋谷駅東口

高71系統

⑦高田馬場駅前→東京女子医大前←⑨市ヶ谷駅前←九段下